ELV Newsletter
Vol. 46
2013.2.15
日本ELVリサイクル機構 ニュースレター　（ELV Newsletter）
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構　広報部会長　永田 則男
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構　〒105−0004　東京都港区新橋３丁目２−２　一美ビル５F
Tel:03−3519−5181　Fax:03−3597−5171　メール：jaera-homepage@elv.or.jp　URL: http:www.elv.or.jp/

巻頭言

震災後１年11カ月がたちましたが、津波被災地は、雪交じりのただの草原で、その変わり果てた光景は私たちに寂しさを訴えかけているようです。被災の形態は様々でしたが、仙台市内の我が社では、私が生まれた年に創業者の祖父がトラックボディの木材を活用して手作りで建てた、築40年以上の事務所が、3・11地震、その後の余震で相当のダメージを被りました。平成24年9月28日で終了する被災家屋の解体申請制度締切ぎりぎりまで悩みましたが、最終的に行政へ申請し、全壊の認定を受けました。40年にわたる社の歴史の全てを知っている社屋。創業者の祖父、二代目社長の祖母、お客様、色んな思い出がたくさん詰まっている建物との別れは辛いものがありましたが、相談した会長（祖母）から、安心して仕事ができる環境を優先するように言われ決心することができました。

公共の建物の場合、震災の事実を後世に伝えるために保存するか解体するか、様々な議論が行われています。

被災車両に関しても、一台一台に思い出が詰まっていたことでしょう。家族での楽しいドライブ、仕事であちらこちらを走り回ったこと等々・・・。

そんな大切な車を、丁寧にリサイクルすることが私たち被災地の解体業者に課せられた仕事と再認識いたしました。

平地 健（広報部会・宮城県）

目次

巻頭言　1
自動車リサイクル連携高度化事業　1
ELV機構便り
・リサイクル技術部会　2
・中・四国ブロック会議　2
・東北ブロック合同新年会　2
・エアバッグ車上作動の問題　3
・第二回自動車リサイクル資格認定制度検討会　3
日本再生への道　3
お知らせ　3
箸休め　3
特別寄稿（モンゴル第二回）　4
鉄スクラップ最新情報　5

《ELV機構活動報告》
～自動車リサイクル連携高度化事業～

《事業の概要》
ELV機構では昨年度来、環境省より自動車リサイクルの連携高度化に関する事業を受託しており、平成24年度は「使用済自動車に含まれる貴金属・レアアース磁石の効率的な回収・リサイクルに関する実証事業」を受託し実施している。
ELV機構の担当窓口は、「回収高度化事業検討委員会」（伊丹伊平委員長）であり、去る1月16日に開催された同委員会の議事概要を基に本事業の進捗状況を報告する。

1.平成24年度自動車リサイクル連携高度化事業の概要

① 目的
・自動車部品に含まれる貴金属やレアメタル（レアアース）は極めて微量なため、大量に回収して効率的に集積する必要があることから、大規模な実証事業を通じて事業の採算性、実現可能性を評価する。
・使用済自動車から回収する有用物を増やすため、回収方法、集積方法、決済方法などを包括した社会システムの構築を進める。

② 回収品目
今回の実証事業では、対象物質を金（Au),銀（Ag),銅（Cu），ネオジム磁石に定め、①エンジンコンピューター基板　②エアバッグコンピューター基板　③エアバッグカプラ―（エアバッグ側コネクター）を全国35団体（273社）が参加して回収する。また、地域限定のトライアルとして高性能モーター（山梨県）、ワイヤーハーネス（北海道）の回収を行う。

③ 実施内容
・全国273社の解体業者において、合計約1万台の車両からコンピューター基板類、カプラーを取外し回収し、集積して精錬業者に引き渡し、資源性の評価を行う。
・実証事業の結果から、①生産性および経済性向上　②CO_2削減　③回収可能な部品拡大の可否 ④精錬業における受け入れ量拡大可能性を検証。

④ 本事業の狙いと課題
・昨年度事業（回収拠点:3、精錬業者:1）の結果を踏まえ、より大規模な実証を行うことで実現性の検証を行う。
・実証結果を踏まえて解体～回収～リサイクルの更なる高度化に向け、自動車メーカー、精錬業者等との連携強化に関する対話を進める。

2. 回収結果

①金属スクラップ（コンピューター基板、エアバッグカプラー）
・回収期間　2012/11-12（概ね1か月間）
・参加団体数・事業所数　35地域団体・273社
・処理台数　11,767台（東：6,099台 西：5,668台）
・回収量
　エンジンコンピューター　2,856kg（東1,272kg　西1,584kg）
　エアバッグコンピューター1,451kg（東 793kg　西　658kg）
　エアバッグカプラー　437kg（東174kg　西　263kg）
・引き渡し先（引き渡し条件を考慮して選定）
　東：JX日鉱日石金属（日立市）
　西：アサヒプリテック（尼崎市）

②ワイヤーハーネス　（Cu）
《実証事件の狙い》
現在、車から取り出されたワイヤーハーネスの8割程度が、そのままの状態で輸出されている。国内の資源確保、バーゼル条約対応の強化などを念頭に効果的な回収・処理方法の実証を行う。
《実験概要》
・実施事業者　北自協の20業者
・処理台数　約1,200台

（次頁に続く）

ELV機構便り　～ELV機構の行事、活動、トピックスなどをご紹介する頁です～

～リサイクル技術部会の現況～

リサイクル技術部会では、これまでの地域団体講習会を発展させ「ELV機構認定講習会」として、その修了者に資格を与え、最終的に自動車解体業許可における認定講習としての地位を確立するための資格認定制度創設に向けた取り組みを行っております。

その一連の取り組みへの方向性を説明し、意見交換をする場として、昨年10月28日（日）、東京において「インストラクター決起集会」を開催し、多数のインスラクターのご参加をいただきました。集会で頂戴した多数の叱咤激励・ご意見・応援に対し改めて出席者、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

部会と致しましては、今年度の講習会の実施を延期させていただき、来年度に改めて実施する新たな「ELV機構認定講習会」への準備と整備を経産省・環境省・JARP・JARC・自工会らの関係者のご支援のもと、今年度中に早急に進めることに専念致しております。今後とも関係者の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。 □

部会長　三木 康弘

～中・四国ブロック会議　開催報告～

第一回中・四国ブロック会議を平成２４年１２月１７日（PM1：00～）岡山市内の“みのるガーデン”にて開催いたしました。

当日は、中・四国ブロック会員は勿論のこと、来賓として河村代表理事を初め経済産業省、自動車再資源化協力機構、スズキ（株）様にご出席の賜り、総勢２１名で会議を進めさせていただきました。

特筆すべきこととしては、各県の取組み状況により中・四国ブロックとしてより一層、連携を深めることの重要性を痛感したことです。

例えば、災害発生時における行政との協力協定締結が完了した県や準備を進めている県、会員拡大を進めている県、残念ながら活動が沈滞化している県等があり、先進県の情報を共有しながら各県との温度差解消を進めていく必要があると感じた次第です。

会議では、河村代表のご挨拶や来賓各位から情報提供いただき、お陰様で活発な意見交換に終始いたしましたことを報告させていただきます。 □

（報告：新田日出美氏　㈲西川商会）

～東北ブロック合同新年会～

東北の6団体は、2月2日福島県郡山市の磐梯熱海温泉「華の湯ホテル」にて合同新年会を開催しました。

青森県自動車リサイクル協同組合（小塚武雄理事長）、秋田県自動車解体処理協同組合（佐藤勇輝理事長）、岩手県ELVリサイクル協議会（長山義一会長）、山形県自動車解体協議会（永田則男会長）、宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合（平地健理事長）、福島県自動車リサイクル協同組合（田村幸男代表理事）の6団体が合同開催した初めての新年会であった。

これは平地東北ブロック長の提案で実現したもので、同業者間の交流と情報交換により業界内の結束を図り、ELV機構の更なる強化を目的としたものである。

新年会は二部構成で行われ、一部は情報発信、二部は懇親会として、冒頭、福島県　田村代表理事による歓迎の挨拶に引き続き、ELV機構吉川日男副代表理事からELV機構の自動車リサイクル士制度に向けた取り組み、回収高度化事業の進捗状況やエアバック類適正処理業務の周知徹底のお願い等の説明があった。

また、日刊市況通信社の三上慎史編集長より「金属スクラップの価格動向と2013年の見通し」と題して、スクラップ価格の変遷から今年の価格動向を予想し、今年は昨年よりも高値安定の予想であるとの報告があった。

引き続いての第二部　懇親会では、平地東北ブロック長より今回素晴らしい新年会が開催され、これを機に今後も合同新年会を続けていく考えが表明され、全参加者による賛成の拍手で盛り上がり、更なる友好と結束を誓って懇親を深めた。□

（報告：田村幸男氏・福島県）

挨拶に立つ吉川日男副代表理事

東北６団体合同新年会記念撮影

（前頁**自動車リサイクル連携高度化事業**続き）

・回収処理要領：車体からワイヤーハーネスを分離し、更に各種コネクター類を切断する
・総回収量：16．3ﾄﾝ（コネクター類分離後の重量）
・再資源化：以下の方法で処理し工数・採算性を検証
　ⅰナゲット処理（銅のみを回収）　処理量　約10ﾄﾝ
　ⅱ粗破砕処理（ラフチョッパー加工）　処理量　約　5ﾄﾝ
・丸本鋼材で前処理後三井金属鉱業にて品位分析

③Dy, Nd磁石モーター（Dy:ジスプロシウム、Nd:ネオジム）

《実証実験の狙い》

HV、EVの普及を踏まえ、駆動用モーター等に使用されるネオジム磁石の回収可能性を実証する。

・ネオジム磁石解体方法の検討と実験
・ネオジム磁石の消磁性可能性の検証実験
　（ネオジム磁石の磁性が強すぎ、取り扱い困難）
・実証担当業者　山梨県1事業者

《その他》

・前述の①～③に関しては、現時点で精錬業者での調査・分析結果待ち
・現在、コンサルにおいて最終報告書とりまとめ中
・会員の理解促進を図るため、広報用小冊子を3月中に配布

（報告：ELV機構事務局）

エアバッグ類の車上作動業務における問題について

～2月、3月をエアバッグ類の適正処理強化月間に～

ELV機構は去る1月29日、所属の地域団体長、部品団体長に河村代表理事名の書簡を送付し、2月-3月をエアバッグ類の適正処理強化月間とするよう緊急の訴えを行いました。 これは、自動車再資源化協力機構（自再協）が行うエアバッグ類の車上作動契約者に対する監査結果が悪化傾向にあり、ELV機構会員の中にも重大な処分を科せられた事業者が増加している実態を踏まえて行われたものです。

自再協では現在、作動契約者に対して事前通告なしの業務監査をおこなっており、その結果、以前に増して不適正な行為が発見されています。河村代表理事の書簡にもある通り、「うっかりミス」や「誤った作業」が摘発され、その結果、事業の遂行に差し障りのある処分が科せられ、かつ、大切なご商売に大きな汚点を残すことになりかねません。

会員各位におかれましては、エアバッグ類の適正処理作業手順などを社内で再確認され、社員全員が正しい作動業務を行うよう、今一度ご周知頂くようお願いいたします。

なお、エアバッグ類の適正処理に関するご質問等があればELV機構事務局までお問い合わせください。 □

《編集企画》 ～日本再生への道～ 第4回

エネルギーに関して、各国の立場を整理します。

アメリカの石油消費量のうち、国内供給が40%、南米から40%、残る20%が中東からとなっていて、中東への依存度が80%にもなる我が国とは全く異なります。もし、イランが何かのはずみでホルムズ海峡を封鎖されたとすると、最も困るのは我が国と言えます。戦争が合理的な判断によらず生じるということを思うと、何かの弾みでイランが海峡の封鎖まで突き進むことはあり得るでしょう。冷静な判断があり、自国の損失を考えると決して取れない選択を弾みでとってしまうという怖さがあります。

アメリカはシェールガスがもたらすエネルギー革命に沸いており、中東との距離を置くようになるでしょう。これまでのような犠牲を払ってまで中東を手中に収める必要がなくなるからです。 また長らく封じていた原発についても最近になって4基の許可を出しました。狙いはエネルギーのベストミックスということでしょう。 一方、我が国では原発全廃の世論が大勢を占めています。 福島の事故を考えると当然の流れと言えましょうが、本当にそれでいいのでしょうか。原子力の技術は、たとえ原発を廃止した後も、使用済み燃料の廃棄、保管などから絶やすことはできません。 また、近代国家として、そのものを持つ持たないは別として、核エネルギーや核兵器に関する知識を持ち続けることは極めて大切であると言えます。 我が国の重工業各社は、世界の原発装置メーカーとの提携を進めて、世界の原発事業でイニシアティブをとる努力をしてきました。 例えば、格納容器については、我が国の製鉄メーカーが世界の80%のシェアを有するに至っています。 それら全てをひっくるめて放棄してしまって本当に良いのでしょうか。冷静な議論と判断を要します。□ （第四回完）

《報告》第二回自動車リサイクル資格認定制度検討会

開催日時　平成25年1月18日（金） 14:00～
場所　ELV機構本部会議室
外部出席者
　経産省、環境省、日本自動車工業会、自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構

《議事概要》

- 前回検討会での指摘事項を踏まえて修正された説明資料に基づき、河村代表理事並びに担当の三木リサイクル技術部会長より、自動車リサイクル士制度（仮称）、認定講習会の概要（案）につき説明を行った。
- 関係諸団体との協力関係に関し、外部参加者を交えての意見交換を行った。
- 意見交換の結果、これまでブロック毎の開催となっていた「インストラクター研修会」を一括開催(例えば東京にて）する方向で検討することとなった。 □

（報告：ELV機構事務局）

自動車リサイクル資格認定制度検討会開催状況

《お知らせ》
かねてよりご案内していました、ELV機構のwebサイト上バナー広告掲載に関し、第一段階としてELV機構賛助会員を対象に申込み受付を開始しました。 ご関心の向きは機構事務局まで。

《箸休め》 写真は、言わずと知れたニューヨークの自由の女神。マンハッタン湾のリバティー島に建てられたこの像は、1886年10月28日、アメリカ合衆国の独立100周年を祝い、南北戦争後の混乱に苦しむアメリカに対して友情の印としてフランスから贈られたもの。 高さ33.86mのこの像は、鉄骨の構造物に銅版を張り付けたもので、鉄骨構造物の設計には、かの有名なパリのｴｯﾌｪﾙ塔を設計したｷﾞｭｽﾀｰﾌﾞ・ｴｯﾌｪﾙも参加していた。 ところで、自由の女神像が他にもあることをご存知だろうか。 ニューヨークの像作成時の縮尺モデルがパリ市内のリュクサンブール公園にあるほか、作者の故郷をはじめ、フランス各地に点在している。 また、パリを流れるセーヌ川のグルネル橋のたもとには、高さ11.5mの像があり、これはパリに住むアメリカ人たちがフランス革命100周年を記念して贈ったもので、1889年11月5日に除幕式が行われた。□

～特別寄稿～　今吉 萌子 氏 寄稿　(在モンゴルJICA事務所勤務)

フォト・レポートモンゴルの中古車・中古部品市場　第二回(最終回)

【部品売り場】
コンテナを並べてその中と外に商品を広げている。外気-20℃でも、野外市場。

【エンジンのテスト】(右)
ずっと野外に展示されているエンジンは、寒さでかからなくなっているため、バーナーで温めてから、動くかどうかをテスト。
冬場、ガレージに入れられない車も、一晩で冷え切っているので、毎朝、同じようにバーナーであぶるんだそうです。

市内にあるガレージは一日500～600円ほど。空きがなく外に駐車する場合は、寒さでエンジンがかからなくならないよう、カバーをかぶせます。羊毛入りの分厚いカバーで、6000円ほど。寒さをしのぎたいホームレスにこのカバーを盗まれることもあるそうです。

【中古タイヤ売り場】(上)
冬場、路面が凍結するため、スリップ事故も多発するモンゴル。その分タイヤの消耗も早いことから、中古タイヤの需要は高いそう。セダン用で1つ100～150$、四駆用で150～400$位だとか。

【ワイヤーハーネス】(上)
無造作に積み上げられている。

【フェンダー】(左)
中国からの輸入品？

2013年の鉄スクラップ相場見通し

H2価格は30,000～35,000円中心+α（需要＞発生）で推移か。

2013年の鉄スクラップ相場は、基本的には相場は堅調に推移するものと予測される。ある程度の下落局面が何度かやってくることは避けられないが、短期的な需給の動きによる調整の意味合いのものにとどまる見通し。H2価格で見ると、30,000～35,000円を中心に、高値では40,000円近くも想定の範囲に入るのではないかと考えられる。

相場を下支えする要因としては、まず政府の施策が挙げられる。新政権となった今年は、「アベノミクス」と言われる経済政策がいくつも実施される予定。まず、大胆な金融政策で円安・株高となった場合、製造業の国内回帰もしくは国内生産の増加が考えられる。また、財政政策については、老朽インフラの補修、東北復興、災害対策など、公共工事が多く実施される。民間投資を喚起する成長戦略のため、鋼材や金属製品の需要が増加し、これが粗鋼生産の増加に、そしてスクラップなどの原料需要の増加につながると考えられる。

海外を見ても、豪州・資源エネルギー局（BREE）の報告書では2013年の世界の鋼材消費量が初めて15億ﾄﾝを超える見通しとなっているなど、その伸びは鈍化するものの鋼材需要は堅調と言える。このため、海外の鉄スクラップ相場も大きな下落は考えにくい。

電力料金によるコストアップなど懸念事項は散見されるものの、全↗体で見ると国内外ともに堅調要因が多い。実際に既に円安が進行しており、2月入りの時点で1ﾄﾞﾙ＝93円（TTS）前後と、1年前の78円前後からはすでにおよそ15円の円安。アベノミクスの効果が表れている。 □

世界の鋼材消費量　　単位:100万ﾄﾝ

	2010年	2011年	2012年	2013年予測
EU27カ国	160	162	161	161
米国	90	94	95	98
ブラジル	30	31	32	34
ロシア	42	44	46	48
中国	600	624	643	668
日本	68	68	72	74
韓国	55	57	60	64
インド	66	76	81	86
世界合計	1,389	1,450	1,491	1,548

出所：BREE、World Steel Association

世界の粗鋼生産量　　単位:100万ﾄﾝ

	2010年	2011年	2012年	2013年予測
EU27カ国	173	176	171	170
米国	81	86	90	91
ブラジル	33	35	35	37
ロシア	67	69	72	75
中国	627	683	704	732
日本	110	108	108	110
韓国	58	68	70	72
インド	67	72	76	82
世界合計	1,415	1,510	1,537	1,586

出所：BREE、World Steel Association

2月第1週（5日）の鉄スクラップ動向

韓国ミル、H2FOB3万2000円を探る動き
～本格的な成約は旧正月明けの見通し～

韓国ミルが日本産スクラップの手当てを続けている。貿易筋によると、現代製鉄をはじめとする複数の韓国ミルは先週、H2を1ﾄﾝあたりFOB32,000円どころ、HSを同34,000円どころで購入した。今週も同価格帯での日本玉購入を検討しているもようだ。

韓国向けH2輸出価格は直近ピーク時にH2・FOB33,000～33,500円まで上昇したが、現地での荷動き改善などを受けてその後下落。韓国ミルは1月第4週に一時同31,500～32,000円を提示したものの日本側が安値を嫌い成約が難航したため、先週から韓国ミルは同32,000円どころでの成約を探る動きとなっている。

一方、関東湾岸では2月に入り安値解消が拡大。船積みが活発化していることを背景に、5日時点の1ﾄﾝあたりのH2関東浜値（FAS）は30,000～30,500円中心、HS・新断が同32,000～32,500円中心と、先月末価格から500～1,000円値を戻した。

関東浜値が値を戻していることから、「現在の韓国側の提示価格（H2・FOB32,000円）では、大量成約には至らないのでは」（商社筋）という声も聞かれる。本格的な輸出成約は、東アジアで旧正月の連休が明ける来週以降になる見通しだ。

速報　財務省・貿易統計によると、2012年の日本の鉄スクラップ輸出量（HSコード7204の合計）は、前年比57.9％増の859万4150ﾄﾝだった。2009年の939万7866ﾄﾝに次いで過去2番目の多さとなった。さらに、2011年が東日本大震災の影響により低水準だったため、前年比での伸びが大きくなった。

関東地区　H2炉前総合価格が3カ月連続上伸、1月は29,900円

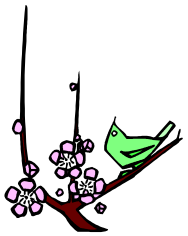
関東地区のH2炉前総合価格・月間平均が3カ月連続で上伸した。1月平均のH2炉前総合価格は、前月比3,000円高、↗前年同月比1,100円安の1ﾄﾝあたり29,900円（日刊市況通信調べ）だった。現在の関東地区のH2炉前実勢価格は30,000～31,000円中心。H2浜値は30,000～30,500円中心。電炉買値、浜値とも1月下旬頃から高値が切り下がる動きが続いた。しかし2月に入ると、下げが一服し、下げ止まり感も台頭しつつある。

東海地区　需給双方とも様子見対応で市況は膠着状態

東海地区の電炉メーカーは、一部で月初にかけて高値解消に向けた動きも見られたが、大半は1月第3週後半のピーク以降は目立った動きがなく、様子見に入っている。このため市況はここ20日近く膠着状態だ。業者では、市況の頭打ち感が広がった前月下旬入り前後に出荷への動きを強め、これがほぼ前週いっぱい続いた。H2炉前実勢価格は30,000～31,000円どころ中心。様子見が広がっているだけに荷動きは全般に勢いがない。

関西地区　大阪、荷動き落ち着き気配で慎重様子見の姿勢

大阪地区では1月30日以降、表立った値動きがなく、市況は膠着感が強まっている。同地区電炉のH2炉前実勢価格は31,000～31,500円、一部高値32,000円。2月入り後、荷動きに落ち着きが見られるため、一部を除き入荷に先月末ほどの勢いはなくなりつつある。ただ先月末の入荷好転に伴い、電炉各社はスクラップ在庫の積み増しを進めたため、足元の入荷減に対して慌てる様子はない。□



本頁に掲載する鉄スクラップ市況に関する情報は、㈱日刊市況新聞社のご厚意でご提供いただいているものです。（広報部会）